

2 神田塩浜御園

平安時代は伊勢神宮の最盛期で、神領地は次第に拡大していきました。

伊勢神宮の十四世紀中頃に書かれた「諸国御厨御園帳（神宮神領記）」や「神鳳抄」などによると、三重郡一帯は応和二年（九六二）に伊勢神宮の外宮領に編入され、この時塩浜地区は毎年伊勢神宮に「塩五斗」を献納する「塩浜御園」になりました。御園や御厨は神様に米や野菜、魚、その他のお供えを献納する領地のことです。

その頃、塩浜の海辺では塩作りが行われていました。御園神社の由緒記によると、

・ 年の初めに取れた塩は、伊勢神宮や御園神社にお供えして感謝の祈りを捧げた

・ 塩作りは、江戸時代初期の寛文年間（一六六一～一六七三）まで行われていた

・ 塩取浜は、御園神社から東へおよそ三丁（三百mあまり）の所に五か所あった

などと書かれています。

現在でも字名の中に「釜屋、新平釜、取手釜」など、「釜」の字のつく地名が残っていますが、これは塩を焼く釜があった所だと言われています。「塩浜」の地名

は、この「塩浜御園」が起こりなのです。

塩作りは馳出の浜でも行われていました。馳出村古地図（四十七ページ参照）には、東の浜辺に「塩取浜」「此内御定納塩取浜」などと書き込まれていますし、享和元年（一八〇一）「馳出村差出明細帳」には、「昔は塩取浜でしたが、大地震で浜がつぶれ塩が取れなくなつたので、田畑にして年貢米を納めるようになりました」と書かれています。

このことによつても、当時塩浜から馳出にかけての浜辺一帯では、塩作りが行われていたことが分かります。

一 米三拾九石八斗 定納浜役御年貢

右は往古不残塩取浜にて御座候得共先年大地震にて浪にて浜損し塩取レ不申候二付田畑二仕候て古来より御定納 浜役御年貢年々上納仕来り申候

古来より相納申候

享和元年 馳出村差出帳

一 米三拾九石八斗

右は往古不残塩取浜にて御座候得共先年大地震にて浪にて浜損し塩取レ不申候二付田畑二仕候て古来より御定納 浜役御年貢年々上納仕来り申候

古来より相納申候

享和元年 馳出村差出帳